

# 令和3年度第1回三重津海軍所跡保存整備指導委員会 議事録

## 1 開会

### ●事務局

それでは定刻になりましたので、令和3年度第1回三重津海軍所跡保存整備指導委員会を始めます。本日進行を務めます佐賀市歴史・世界遺産課の岩瀬と申します。お手元の次第に沿って進めますのでよろしくお願いいたします。

## 2 あいさつ

### ●事務局

次第2\_あいさつです。佐賀市企画調整部長の大串が皆様にご挨拶申し上げます。

### ●企画調整部長

おはようございます。佐賀市企画調整部長の大串でございます。指導委員会開催に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

本日はお忙しい中、当委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。またコロナ禍の中で、リモート参加の委員の皆様におかれましても、ご協力感謝申し上げます。委員の皆様におかれましては、日頃から三重津海軍所跡の保存・整備・活用に関する当市の取組に対しまして、それぞれの専門の立場からご指導いただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの話題にどうしてもなってしまうのですが、第4波ということでまだまだ猛威を振っているところでございます。私たちの生活・仕事・活動などに、いろんな意味で影響が多く大きくなっておりまして、佐賀県でも先週の5月16、17日には、病床率の使用率が50%を超え、大変な危機的な状況を迎えたところでございます。今が踏ん張りどころというところで、県域を越えた往来の自粛、飲食店の20時までの時間短縮要請などがなされております。佐賀市においても今週から高齢者へのワクチン接種が始まったところでございまして、一刻も早い終息を願うばかりの状況でございます。

こういった状況でございますけれども、佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館の建築工事につきましては順調に進んでおりまして、今月末には概ね工事が完了いたしまして、建築工事の検査後、6月中旬頃から館内の展示物の設置工事に移る計画としております。

各展示物の製作進捗につきましては、後ほど報告事項の中で詳しく説明をさせていただきますけれども、こちらも順調に推移をしているところでございます。オープン of 9月下旬には、新型コロナ感染症の状況が少しでも改善をして、多くの方にご来館いただけることを期待しつつ、感染症予防には十分に留意いたしまして準備を進めてまいりたいと考えているところでございます。

本日は報告事項が3つ、議題が2つあり、12時終了予定としております。長時間の会議となりますけれども、活発な会議となるようどうぞよろしくお願いいたします。簡単ですが、挨拶とさせていただきます。

## 3 出席者紹介

### ●事務局

続きまして、次第3\_出席者紹介に移ります。本日の出席者の紹介はお手元に準備しております委員会名簿で代えさせていただきます。本日は、有馬会長、渡辺副会長、安達委員、今津委員はリモートでの参加、内田委員につきましては欠席となっております。

また、名簿に網掛けしている関係組織ですけれども、コロナ禍の開催ということで室内の収容人数等考慮いたしまして、本日の会議内容を後日共有させていただくとしておりますのでご報告させていただきます。

## 4 会長あいさつ

### ●事務局

それでは、次第4\_会長あいさつでございます。有馬会長からご挨拶をいただきたいと思っております。

### ●会長

皆さん、おはようございます。三重津海軍所跡のガイダンス施設整備につきましては、展示物その

他をはじめこれまで長時間かけて様々な方のご意見を伺いながら詰めてきたというところで、いよいよ最終段階に入るということになります。それと同時に、この会議は展示準備で済みというのではなくて、現場でのモニタリングをはじめ、様々な、今後ずっと考えていかなければいけない問題についても当初からあわせて検討を続けてきたところでございます。

それらを含めて、前も申し上げましたが、私あっちこっち全部見ているわけではないですけども、このガイダンス施設につきましては、こんなに時間かけてやっているところが果たしてあるかどうかというぐらい、丁寧な議論を積み重ねてきたところでございますので、あと一息です。是非よろしくご検討をお願いしたいと思います。以上です。

●事務局

ありがとうございました。

**5 議事**

●事務局

それでは、議題5\_議事に入りたいと思います。ここからは委員会設置要綱第6条の規定により有馬会長に進行をお願いしたいと思います。有馬会長、よろしくお願いいたします。

●会長

それでは議事に入りたいと思います。具体的に議事に入る前に毎回同じであります、本日の会議は公開ということにしたいと思っております。皆様いかがでしょうか。（了承）

それでは進めてまいりたいと思っております。私がリモート参加ですので、私の方から発言の際に挙手をされた方を確認しにくいかもしれません。その場合は事務局の方でフォローしていただきたいと思っております。ご発言の際、リモート参加の皆様、委員の先生方は挙手をお願いする、会場もそうですけれど、マイクの使用をお願いしたいと思います。

本日は議事として報告事項が3つと、協議事項が2つ用意されておりますので、順を追って進めていきたいと思っております。

**【報告事項】**

**(1) 令和3年度の三重津海軍所跡ガイダンス施設整備スケジュールについて**

●会長

報告事項の(1)でございます。令和3年度の三重津海軍所跡ガイダンス施設整備スケジュールについて、事務局から説明をお願いいたします。

●事務局

令和3年度の三重津海軍所跡ガイダンス施設整備スケジュールについて説明いたします。

資料1をご覧ください。

先ほど部長あいさつにもありましたように建物工事は外構工事を除きまして概ね5月いっぱい完了する見込みとなっております。

グラフィックパネルについてはですけども、今月中に日本語の解説文を確定させ、翻訳に入っていく予定になっております。その後パネルの制作を行って、8月の後半から現地での設置作業となる予定です。

ドライドックの原寸大模型は、現在、工場で作成しております。7月中頃に現地搬入を行い、仕上げ作業を行うことになっております。

洋式船模型については、6月上旬に進捗の確認と監修をお願いしております。

大型スクリーンと映像ホールの映像は、3月1日に行った委員会で、ドライドックのゲート開閉のタイミングや、稽古場地区での訓練の表現についてご意見を頂戴しております。その部分の修正を行い、4月7日開催の作業部会で確認いただいた後、会長・副会長にも確認いただき、2本の映像の流れを確定させております。現在、映像の本格的な作り込み作業に入っているところです。スケジュールとしては、8月の後半までに2本の映像を完成させ、現場での動作確認や調整を行っていく予定になっております。

複製物作成については、6月初旬までに各種手続や必要な調査を終えて、本格的に制作に入っていくことになっております。

共通端末は、現在コンテンツの一部についてのデモ版を制作し、動作確認を行っているところです。後ほど、デモ版をお見せしたいと思います。

ライブラリーについては、掲載するデータの整理や、データベースの階層の整理を行っているところです。

最後に、委員会と作業部会のスケジュールについてです。次回の委員会は8月後半ごろに開催予定で印をつけております。この時期は展示物が館内にはほぼ設置されたタイミングとなりますので、その時期で開催したいと考えております。現地で展示室の整備状況を確認いただければと思っているところです。

スケジュールの説明は以上になります。

#### ●会長

ただいまのスケジュールの説明について、何か質問はございますか。これは特によろしいでしょうか。拝見すると、模型は7月には現地の設置作業が始まるようでございます。いよいよ最終段階という感じがいたします。よろしくお願いいたします。

### (2) 三重津海軍所跡展示室の展示物の進捗について

#### ●会長

では次に進ませていただきます。

報告事項の2です。三重津海軍所跡展示室の展示物の進捗。これは次第にございますように、映像と模型に分けて説明いただきたいと思います。はじめに、映像の進捗について事務局から説明をお願いします。

#### ●事務局

三重津海軍所跡展示室の展示物の進捗について、まずは①映像をご説明します。

資料2-1、2-2をご覧くださいと思います。

資料2-1が大型スクリーン映像のカット画像、資料2-2がガイダンス映像のカット画像になっております。

先ほどスケジュール説明の際に、前回の委員会でドライドックゲートの開閉するタイミングについてご意見を頂戴したと申し上げました。ご指摘を受け、ドライドックのゲート開閉の方法について再度整理しておりますので、まずはその説明をさせていただきます。

画面左側をご覧くださいと思います。左側が調査報告書にも記載している内容で、これまで説明してきたドライドックの運用になります。満潮時に船をドックの中に入れて、ゲートは開いたままで干潮を待つ。ドック内の水が潮に合わせて無くなったところでゲートを閉める。ゲートを閉めてしまえば、川の水が満ちてきてもドックの中には水が入らない、というような形で考えておりました。

安達委員からのご指摘を受けまして、画面右側の運用方法に再整理いたしました。

ドックのゲートを開けて満潮を待つ。満潮時にドックに船を入れ、船が入った後に干潮を待たずゲートを閉じる。ゲートを閉じて船の固定作業を行う形になります。ここでゲートを閉めるのは、川の波、潮流の影響を受けないようにするため、流れを遮断するという意味でゲートを閉めることとなります。この時点ではドックの中に水が入っているけれども、このゲートの下側にある小さい窓を開けて、そこから徐々に水を排水する。排水作業には干満が関係してくるけれど、水が干くと同時にドック内の水も小窓から排水されてドック内の水が無くなってしまいます。ドック内の水が排水された時点で小窓を閉めてしまえば、満潮になってもドック内に水が入ってくることはない。出渠する時は逆で、小窓を開けて水を徐々に入れていく。固定されているビットやロープを取り外しながら出渠準備を始めて、最後にゲートを開け出渠するという流れになります。

以上が、ドックの運用方法を再整理したものとなります。

次に、映像の説明に入らせていただきます。

現在、映像については作り込み作業に入っており、部分的にですが、映像の精度が上がってきているので、その部分のカット集を準備しております。お手元の資料には大型スクリーン映像が出渠の様子とキール銅板張替えの様子、ガイダンス映像はドローンによる空撮、船屋の風景、銃の操作訓練の風景を載せています。

なお、安達委員とは昨日打合せをさせていただき、大型スクリーン映像、ガイダンス映像それぞれのカット画像を確認いただいております。大型スクリーン映像では、ドック周りのビットの大きさや、船を引っ張るロープの緩み方、船底でのキール銅板張替え作業の明るさ等について指摘をいただいております。この部分は今後修正を行う予定にしています。

昨日追加の画像が送られてきたので、画面共有でご確認いただきたいと思います。

まずは大型スクリーン映像からご覧ください。

- ① 電流丸が入渠してくる画像になります。
- ② 入渠してゲートが閉じ、下の小窓からドック内の水を排水して水がカラになったところ。
- ③ キール銅板張替え作業の画像です。船底の作業環境が暗いので少し調整をかけていきます。
- ④ これは手元資料にもある画像で、銅板張替えシーンです。上部が使用されてきた銅板で少し暗い感じの色。キールの部分は銅板を張り替えているので、新しい銅板の色を表現している。これから張替え作業を行う部分は、タールを塗った紙が見えている表現としています。
- ⑤ これは手元資料にもある画像で、出渠の様子になります。後ろの曳船が両側 10 隻ほどで曳いています。安達委員からのご指摘として、ビットの大きさが人物と同じ程度の高さになっているし、太すぎるといふ点、ロープがたるんだように見えるという 2 点がありますので、この部分は今後修正を行いたいと思います。

- ⑥ 映像の最後に登場する凌風丸の画像です。
  - ⑦ エンディングで使用する佐賀の風景画像です。
- 以上が大型スクリーン映像のカット画像となります。

次にガイダンス映像をご覧くださいと思います。

- ① これは映像冒頭で早津江川に 3 隻、飛雲丸、電流丸、晨風丸が並んでいる画像です。
- ② 3 隻が停泊している間をカメラが抜けていくカット。
- ③ 3 隻のそばをカメラが抜けてしまい、三重津海軍所の方に進んでいくという画像です。
- ④ これは現在の三重津海軍所跡の空撮画像で、このカットの後、徐々にカメラが三重津海軍所跡に近づいて CG に切り替わっていきます。
- ⑤ これは船屋地区の画像。手元資料ではまだ色が入っていないものをお配りしておりますが、多少、人や船に着色が施されている状態となっております。
- ⑥ 同じく船屋地区の画像です。
- ⑦ 稽古場地区で銃の操作訓練を行っている画像です。
- ⑧ 同じく操作訓練の画像です。お手元の資料では、まだ色がついていない状態ですが、着色され画像としての精度が上がってきております。
- ⑨ これはエンディングで使う有明海から朝日が昇ってくる画像です。実写です。

最後に、大型スクリーン映像について、ほんの一部ですが画像の精度を上げ、動きをつけたサンプルができていますのでご覧ください。甲板上にいる人物など、人の動きが表現されております。

説明は以上になります。

●**会長**

映像の進捗状況の説明をいただきましたが、ご意見ご質問はございますでしょうか。

●**委員**

銅板の張り替え作業をしているところの図は随分暗い。ところが、反対側を見ると日が照っている。反対側で修理作業を行うともう少し明るいのではないか。

●**事務局**

今の画像では若干暗くなっているので、少し明るさを調整したいと思っております。

●**委員**

そう意味じゃなくて、上流側を見ると日が照っていて、ドックの下に日が射し込んでいる。なので、左舷側もそういう時間帯の作業を見せれば、船底まで日が射し込むのではないか。

●**事務局**

タイミングを考えてみます。

●**会長**

ほかに何かございますか。

●**委員**

精度は非常に上がってきていると思います。こういう形で、映画というかシネマライクの映像になってきていると、これまで映像に関して追及してきたと思うが、映像に関しては音が必要。音響デザインという視点で考えると、映像がリアルになればなるほど、先ほどの指摘のように光の部分も含めてですが、音の効果は当然必要なと思っております。

今回の資料映像、展示映像に関して言うとそこまで音には余り触れないというか、BGM とナレーションでされるという考え方だったのかもしれませんが、これだけ緻密な映像表現というのを考えてい

くと、例えば効果音とか、先ほどの工事の部分で人の息があるとか、あるいは話している声が出る、叩いている音が出るとか。ガイダンス映像に関しても、カメラが空間を動いていくので動いていく効果音があってもいい。

また、音のデザインということで考えていくと、平面図を見るとスクリーンに関しては示されてきていますが、スピーカーの位置が確認できない。スピーカーに関しても多分考えてはいらっしゃると思うが、スクリーンがあるところだけにスピーカーを置くと、正面からしか音が響いてこない。例えば、マルチスピーカーとか、どこの映画館でもサラウンド的な効果を考えて音響調整をされているけれど、今回そこまで踏み込んで考えているのかどうか。先ほどの映像、音響デザインも含めて確認させてほしい。

#### ●展示業者

効果音、BGMに関してですが、この映像のために作曲をします。著作権の問題もありますので、今回は完全にオリジナルで作曲をします。

あと、映画系の音響担当が、風の音、作業の音、ドックの中のこもり音みたいなものも含めて、できるだけそういったものを入れながら、目の前で昔の方々が作業しているかのような、リアルな空気感をつくりたいと考えております。

音響装置に関しても配置図にはお示しできていませんが、基本的にはある程度シアター的な音響効果を出していきたい。お客さんの位置が停止しないのでステレオでやらない方向で考えておりますが、基本的には空間の中で、スロープ上のデッキからも、音が聞こえるようなことを含めて音響設計をしております。

#### ●委員

没入感のことを考えると音響は非常に大切だと思うので、よろしくお願ひいたします。

#### ●展示業者

ご指摘ありがとうございました。音響は本当に気をつけて進め、途中での確認も含めながら進めたいと考えておりますので、ご指導よろしくお願ひいたします。

#### ●委員

ガイダンス映像のカット画像ですが、稽古場での訓練の途中で発砲シーンがあったように見えたけれども、根拠などあるのでしょうか。

#### ●事務局

発砲したかしていないかという部分については文献から確認はできておりません。ただ、稽古場地区で銃を使った訓練を行っていたというのは文献上で確認できています。弾を込めて打ったのかはわからないが、空砲ぐらいは打ったのではないかとということで、こういう映像にしています。

#### ●委員

映像映えをある程度意識したようなところもあるのかなという感じがしたので確認でした。わかりました。

#### ●会長

ほかにいかがでしょうか。

まったくの感想ですが、かなり細部まで丁寧に作り込まれてきて、ここはお客さんにびっくりしてもらおうところだと思うので、そういう意味でリアリティの精度が上がっていくのはいいことかなと思います。資料 2-1 の船を見たとき、ロープの数を数えようとしたけれど、ちょっとびっくりいたしました。そんな素人っぽいところでびっくりされても困るとおっしゃるかもしれませんが。

こういうディテールは後々、お客様にある程度誘導してさしあげるといふか、ここが凄いいいことを説明することも必要な事だと思います。ここが凄いいいという自慢した途端に、間違っていますと言われたら目も当てられないので、これまでどおり、慎重に検討しながら進めていただければと思います。

では、模型の進捗状況について説明をお願いします。

#### ●事務局

資料 3-1、3-2 をお願ひいたします。

資料 3-1 はドライドック模型の進捗写真で、5月12日時点のものになります。写真を見ておわかりいただけるとおり、現在木組み部分の制作を行っております。木組みの制作が終わった後、地面の制作に取りかかる予定になっております。あらかたの部分は工場で作成を行い、7月半ば頃に現地に搬入します。パーツを現地で組み上げまして、最終仕上げを行うことになっております。

次に資料 3-2 をご覧ください。洋式船模型の進捗となります。

1 ページ目が電流丸、2 ページ目が凌風丸になっています。電流丸は船体部分の塗装や煙突、ハッチなどを制作しているところです。凌風丸は、先行して取りかかったこともあって、現在、船体の仮組まで進んでいます。6 月上旬に進捗確認を予定しているところです。

説明は以上になります。

●**会長**

ただいまの説明につきまして何かご質問ご意見等ございますか。

●**委員**

電流丸は帆を張った状態での模型を作るのではなかったですか。

●**事務局**

展帆で予定しております。

●**委員**

展帆だと煙突は縮める。これだと縮まらないかもしれない。

●**事務局**

制作担当にきちんと伝えます。

●**委員**

細かいところは6月初めに。以上です。

●**事務局**

よろしく申し上げます。

●**会長**

他にございませんか。模型の進捗についてよろしいでしょうか。ありがとうございました。

### **(3) 世界遺産展示室について**

●**会長**

報告事項 3、世界遺産展示室について説明をお願いします。

●**事務局**

資料 4 をご覧ください。

世界遺産展示室に設ける展示につきましては、「明治日本の産業革命遺産」の全体概要等の解説を行うために、構成資産のガイダンス施設に共通で設置されるものです。本施設では、正面の入り口から入ってすぐ左側の部屋に設置する予定としております。

1 ページに世界遺産展示室の平面図、2、3 ページに立面図を載せています。部屋の正面に「産業日本の勃興」をタイトルとしたメッセージボードを設置し、時計回りの動線で展示物を見学いただく予定にしています。

詳細については内閣官房と協議しながら、内容を固めていくこととなります。

世界遺産展示室の説明は以上になります。

●**会長**

この展示は、「明治日本の産業革命遺産」の構成資産全体に求められているものであります。これはストーリーが決まったもので、佐賀市がオリジナルで何かするという話ではありませんので、きちんとやるべきことをやればよろしいのではないかと思います。

以上で、報告事項を終わります。

### **【協議事項】**

#### **(1) グラフィックパネル (案) について**

●**会長**

それでは協議事項に入ります。

協議事項 1、グラフィックパネル (案) について、事務局から説明をお願いします。

●**事務局**

資料 5-1、5-2、5-3 を使ってご説明します。

ガイダンス施設の 1 階、中 2 階、3 階のグラフィックパネル (案) をお示ししております。

資料 5-1 は、グラフィックパネルのレイアウトやゾーンサインの案です。挿図について枠だけ設けたり、解説文で若干調整が残っているものもございますが、現時点のものとしてお示ししており

ます。

この資料の冒頭1、2ページはゾーンごとのカラー展開、展示パネルの高さの考え方、ユニバーサルデザイン対応の考え方を示した資料となります。44、45ページには1階受付後ろのガラス面に貼る1～3階のフロアイメージ、47、48ページには三重津海軍所跡展示室の導入部分となる時空のトンネルのパネル案をお示ししております。

資料5-2は、各パネルの配置位置を示した展示平面図です。

5ページは金属加工等を説明するコーナーの平面図です。前回の委員会で、三重津海軍所跡から出土した金属遺物は、三重津海軍所跡が汽水域に立地するため塩分が多く含まれており、保存処理では、塩分をしっかりと取り除くため高温高圧脱酸素水による脱塩処理を行ったほうが良い事、また、保存処理を行った後でも塩分が完全に抜けているわけではないので、空気に触れた環境に置くと、劣化が進行する可能性があるという指摘をいただいております。このご指摘を受け、再検討を行い、特に鉄製遺物の展示環境を整えるため、窒素封入ケースをこのコーナーに導入することとしました。図面の左端のあたりに「窒素封入ケース」と表示されてが、ケースを置く場所になります。

平面図の11ページをご覧ください。中2階のレイアウトですが、中央に置く大型パネルは1枚のボードの両面使いを考えていましたが、設置したときの強度の確保や、2階につながるスロープに設置された手すりの出っ張りとの位置関係を考慮し、レイアウトを変更することとしています。

資料5-3をご覧ください。グラフィックパネルの解説内容テキストとなります。

解説内容に関しましては、これまでゾーンごとに担当いただいている監修者の方々と個別に打合せをさせていただきながら内容をつめてきております。なお、テキスト案につきましては、地名や読み間違いがありそうな名詞、固有名詞、人名についてはルビをふっています。

説明については以上になります。

●**会長**

ただいまの説明について、何かご意見はございますでしょうか。

●**委員**

先ほど説明にあった金属を入れるケースですけれど、汽水域というか、塩分を含んでいて特に問題になるのは硫黄。硫黄と鉄が反応して硫化鉄ができるけれど、それが空気中に置いてあって湿度が55%以上くらいになるとどんどん崩壊していくという事例が世界各国で報告されており、これもそれに当たるだろうと思っていたら、案の定、保存処理後に亀裂が出てき始めたものがあつた。徹底的に脱塩をして、かつ長くずっと常設展示をするならば、酸素を入れないケースにしたほうが良いでしょうという指摘をしました。酸素を入れないケースというのは非常に高価なもので、最初に日本で作ったのは稲荷山鉄剣。当時ケース制作に2億円かかっている。九州国立博物館でもそれを展示したわけですが、2億もかけられませんので、業者さんを探して200万ぐらいで作ったのが、今回佐賀市にお話したものです。

設計図は見えていないけれど、割と小さな展示ケースを造る予定だと聞いています。実際費用はどれぐらいかかったか分からないですけど、そのあたり少し説明を聞きたい。どんなケースということ、小さなものでも脱酸素状態で保管していけることが、予算内でできたならそれが1番良い。安心して展示することができると思います。

●**会長**

事務局いかがでしょうか。

●**事務局**

鉄製品を入れるケースについてですが、サイズは、幅が40cm、奥行き30cm、高さ20cmくらいのケースになります。下に脱酸素剤とか機械的なものを収納して、透明なアクリルケースの中に鉄製品遺物を入れるケースになっています。窒素を注入して無酸素状態にします。

●**委員**

窒素ガスボンベを下に置くタイプか、脱酸素剤だけ入れて封入するタイプのどちらでしょうか。

●**事務局**

最初に窒素封入して、一度入れると大体、1年～1年半ぐらいは窒素については追加する必要はない。下のほうで、調湿等の薬剤の入れ替えが必要になるということです。

●**委員**

ありがとうございました。先ほど2億円と紹介した稲荷山鉄剣の場合は、24時間365日、窒素ガスを垂れ流しするというシステムだった。その後改良し、脱酸素剤が出てきて、そういうメンテナンス

が必要なく薬だけを入れておけば良いような状態に発展してきているので、今回もそのメンテナンスという点ではかなり楽になっているのではないかなと思います。この委員会で費用のことは言って良いのか分かりませんが、予算の中には納まりましたか。無理をされましたか。そのあたりはいかがでしょう。

●事務局

コストについては、予算の範囲内で調整いたしました。

●委員

大丈夫だったということですね。わかりました。ありがとうございます。

●会長

ありがとうございました。こういう保存に関する問題はとても大事なことで、こういうふうにやっていますというのをきちんと市民、あるいはお客様に対して説明しなきゃいけないと思う。その場合、わかりやすい言い方はとても高価でしたというのが割とわかりやすい。それで納得していただければ、無駄遣いしやがってと思う人もいるかもしれないけれど、そこまでやっていますという説明にはなると思う。別に金額を公表しろと言っているわけじゃなくて。そのあたりは「とても大変でした。」「そういう大変なことをちゃんとやっています。」というのは説明していかなきゃいけないことだろうと思っております。

前も申し上げたように、地下水のモニタリングについても「ここまでやっています。」「そこまでやらないと駄目なんです。」というのは、やっぱりちゃんと説明し、それによって遺産に対する理解が深まるということだと思うので、そこは大いにアピールしていただいてよろしいのではないかと思います。

●事務局

ありがとうございます。現場でお客様に説明をされるガイドさん方にもしっかり情報をお伝えし、できるだけ説明をしていきたいと思えます。

●会長

ありがとうございます。ほかに何かございますか。

●委員

2点ほど質問させてください。

1点目は資料5-1の2ページ目。左側の図はパネル設置の高さということで、成人男女平均目線の高さで設定している。この図を見ると車椅子の目線高と35~40cmぐらい差がある。これだけの差があつて、成人男女平均目線の高さに合わせると、車椅子の方にとってはかなり高くなるのではないかなという気がしています。このあたりのバリアフリーの考え方と、目線の高さの設定というのはどういふふうにお考えになっているのでしょうか。

●事務局

基本的には成人男女の目線の高さで考えています。点線が目線の幅、視野の幅でいくと成人男女の平均目線高で見た場合でも、視野はある程度カバーできるのではないかなということ、この高さで採用しています。

●委員

それだと車椅子目線とかなりずれが出るのではないかなということ質問しているのですが。

●事務局

成人目線高と車椅子の目線高は30cmぐらい差がございます。一方で、展示室ごとにパネルからお客様がどれぐらいの距離をとって見ることができるかも異なるため、パネルを設置するうえでは検討が必要となります。十分にスペースをとれる場所もあれば、Dゾーンなど、余りスペースが無い場所もあるので、実際の広さとかも調整しながら、現場で合わせながら調整していくことになるかなと思っております。

●委員

目線高をなるべく統一するというのは、絵画の展示の仕方でも一般的なあり方ですけども、今の説明を聞くと、一方でバリアフリーを言っておきながら、車椅子目線高についてどのように配慮していますかと説明されるとどうも説明になっていないように聞こえてしまう。

こういう配慮をして、こういうことに決定しましたという説明責任みたいなのが、やっぱりバリアフリーを訴える以上は求められると思う。そこは考えていただければと思う。もちろん部屋ごとにケー



スパイケースという判断もあり得るとは思うけれど。

●**会長**

展示業者さんにも知見があるでしょうし、それから、実際に見ていただくということも可能だろうと思います。そのあたりの説明の仕方だと思うけれども、あるいは決め方でもいいですけども。

●**事務局**

諸室の広さや、どの辺りから展示物を見ることができるのかを含めて業者とも調整していきたいと思う。

現場でパネル毎に調整を行いながら今後進めたいと思います。次回の委員会で、こうやりましたというのを現場で確認いただければと思います。

●**委員**

わかりました。ありがとうございます。

もう1点は資料5-1の29ページ「出土遺物からわかること」のパネルで、このパネルに掲載する写真は、染付灘越蝶文大皿の写真1枚だけですか。

●**事務局**

パネルの挿図としては、大皿の写真を入れようと思っております。

このゾーンでは出土品を展示物することにしており、三重津から出土した灘越蝶文の皿を並べるようにしている。

●**委員**

わかりました。これだけ出されると、鍋島焼の灘越蝶文大皿が三重津から出たようなイメージになるかなと思ったので、実物が手前にあるのであれば、あくまで出たのは鍋島焼を模倣したものということがわかるので結構です。ありがとうございます。

●**委員**

グラフィックパネルの記述内容を確認させていただいておまして、資料5-3についても私が担当しているところでも、若干事実関係の調整、修正も入ってくると思います。それは今後対応するとして、構成自体はそれほど変えるところはないけれど、全体に係ることとして、かぎ括弧がついていたりついていなかったりするのがある。固有名詞とかかぎ括弧付で表現するものしないものの区別が分からない。ルビも地名とかにはと言われましたけれど、今ふってあるものだけで良いのかということもあって、そのあたりの体裁の部分で一度全体を通してチェックして調整を図ったほうが良い。展示業者さんをお願いしてやっていただければいいのかなと思いました。

●**会長**

ただいまの問題については、こういう時はかぎ括弧をつけるとか、ルビをふるとか、全体を通しての基準、範例というものは作られていますか。

●**事務局**

明確な範例は作っていなかったなので統一感がない状態になっております。今後調整していきたいと思えます。

●**委員**

3点ほど気づいたことですが、29ページの「出土遺物からわかること」のパネルを例にとると、このパネル見る人は、パネルに対して動線が向かって左から来る。タイトルが右側にあるので、お客さんが来る側にタイトルがあるようにした方がよいと思う。報告事項にあった世界遺産の共通展示は必ずこうなっていたようなので、三重津のフロアでお客様の動線がどう動くかわからない場合もあると思うが、タイトルと本文・図版の位置は動線を考えながら配置すると良いと思う。

2点目が資料5-1の1枚目。ゾーンごとのカラー分けがあつて、それぞれカラーの意味合いの説明があり、この説明自体はよろしいのかなと感じた。1階受付の周辺が白黒だったと思うけれど、お客様からすると歴史館に来られているわけなので、佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館のミュージアムとしての統一は、1階のフロアと中2階だけで完結せず、佐野常民展示室との絡み、色の調和も必要と思った。

もう1点、いただいている資料はパネルに関しての詳細なレイアウトとテキストですが、展示品それぞれにキャプションが付くものがあると思うが、そちらに関しては進行状況、スケジュールを教えてくださいませんか。

●**事務局**

キャプション等については、特に遺物については現在展示する物の選定を行っていて、まだ詳細が決

まっていない。

●委員

最初にスケジュールの報告をいただいたが、パネルと同じように、キャプションもスケジューリングの中で考えておられるとは思いますが、我々も内容を拝見できることがあればとも思うので、キャプションについてのスケジュールを示しておいてほしい。

●会長

博物館ではパネルは展覧会担当者がバタバタで前日になってもまだ出来てないのかみたいな状態でやっていることもある。これは組織で誰かにお任せではなくて、組織としてきちんと進めていることでもありますので、スケジュールにちゃんと織り込んでおく必要がある。どの段階で原稿が出来てそれを誰に見てもらおうのかということも含めて織り込んでいないと、脱落したり、ミスが出たりする。そこはぜひよろしくお願ひしたい。

●委員

資料 5-1 の 12 ページの「千石船と電流丸との比較図」は電流丸に差替をするとあるが、千石船は船の科学館の図から採ってきたものか。

●事務局

そうです。

●委員

千石船も替えたかどうか。

あと、22 ページの「洋式船図解」は何を基にして描いているのか。

●事務局

ベースは船の科学館のものだと思うが、それをベースにして作図する予定です。

●委員

ベースにしてとはどういう意味？写すということか。やめておいたほうがいい。もっといろいろな方法があるだろう。

●事務局

後ほど相談させてください。

●委員

こういうものを描くのは難しくて、何を基にして描かれているのかというのを把握しておくべき。気を付けるように。

●事務局

後ほど相談します。

●会長

そのあたりは十分意見を伺って気をつけてお願ひしたいと思います。

●委員

根本的な問題ではないですが、資料 5-1 の 15 ページ「遺構を未来に引き継ぐために」について解説は「埋め戻しています。」で終わっているが、埋め戻してモニタリングをしていることが大事なことなので、そこは「埋め戻しています。」で終わらないで、「モニタリングして経過をみています。」ということを一言書いていた方がいいのではないか。39 ページでも別途「遺跡のモニタリング」という項目が出てくるので、これとの関連もあります。つなぎの言葉を書いたほうがいいのかと思う。

●事務局

承知いたしました。

## (2) 共通端末の詳細構成(案)について

●会長

協議事項(2) 共通端末の詳細構成(案)について、事務局から説明をお願いします。

●事務局

資料は 6-1、6-2、6-3 を使ってご説明いたします。

資料 6-1 は、解説パネルと共通端末でそれぞれどのような内容を解説するかという役割分担を明確にするため、項目出しをしたものです。表の左側の太枠で囲んだ部分がグラフィックパネルで解説を行う項目、右側の太枠で囲んだ部分が、それぞれの場所で共通端末にどのような機能を持たせるかを書き出している資料になります。

基本的な解説はグラフィックパネルで行う予定をしていて、共通端末に持たせる機能としては、屋内ではより詳しい情報を知りたい方への詳細解説、CG やデジタル技術を使った解説を考えています。

屋外では CG やデジタル技術を使った稼働期の海軍所の説明、各地区での検出遺構の解説を考えています。

資料 6-2 は、共通端末のアプリケーション画面の設計図になっています。

トップページでスタートボタンを押すと、館内あるいは館外のマップが立ち上がってどのポイントにどのコンテンツがあるかが示されます。1 ページ下部のマップは、館内のフロア図と屋外の図面を仮置きしているため統一感がないものとなっていますが、ベースに使用する屋内・屋外の図面は今後調整を行う予定です。それぞれのポイントに応じたハブページが示されて、それぞれのコンテンツに移動することとなります。

情報の取得方法は 2 ページ目の右下に示しているように、ポイントに近づくと自動的に情報が取得される近接ビーコンで考えています。

資料 6-3 は、共通端末での詳細解説のテキスト案になります。

グラフィックパネルの原稿と同様、地名や読み間違いがありそうな名詞、固有名詞、人名にルビを入れている。どこまでルビを設けるかは、先ほどグラフィックパネルでもご指摘いただいたように、統一感を持った形で今後調整していきたいと思えます。

今回、共通端末のデモを準備したので、動きの確認をしていただけたらと思えます。

—画面共有でデモ版確認—

- ・バックの背景は今後調整をかけていく。
- ・スタートメニューを押すとマップが現れ、どの場所にどういったコンテンツがあるかを示す。
- ・詳細解説を押すと、4つのアイコンがあったので4つのタグが出てくる。
- ・「詳しく知る」というタグを押すと詳細解説が出てくる。
- ・「デジタルで楽しむ」を押すとCGで確認できたり、デジタル技術を使って楽しめるものを用意したい。360度回るような形になっている。
- ・屋内・屋外連携はまだ仮置き状態だが、館内で見える場合は外にどんな遺構があるのかなどを示すことができればと思っている。
- ・佐賀藩保有の洋式船のコーナーの「デジタルで楽しむ」では、安達委員の監修のもと作成している電流丸、凌風丸、飛雲丸、晨風丸のCGを360度自由に回して来館者の方に見てもらおうことができないか考えているところです。現時点でのデモ版でご確認いただけるのはここまでになります。

共通端末の詳細構成の説明は以上になります。

## ●会長

何かご質問ございますでしょうか。

## ●委員

現時点で考えている共通端末の内容はこれとして、今後追加ができたりするものなのか。

資料 6-1 の 2 ページの佐賀藩保有の洋式船のところで、洋式船 3DCG について「※スケールの変更はしない」と書いてあるが、これは何か理由があるのか。拡大して見たい人がいると思う。元データがあるのであれば拡大して見せてもいいのではと思うが。

## ●事務局

今後機能の追加ができるのかという点については、新たにシステム改修が必要となりますが、説明するポイントを増やすこと等は可能です。

洋式船 CG のスケールを拡大しないという点は、監修いただき作成した CG なので、監修者と調整させていただければと思っています。

## ●会長

よろしいでしょうか。他に何か。

## ●委員

今のことに関連してですが、CG は入渠の時と停泊時しか作成していない。蒸気で走っている時の図

があって、それは停泊時にはメインマストに帆を掲げずに、バウスプリットに掲げる図は作っている。走っている時はメインマストに帆を掲げる。これは一図を作ればいいだけの話なので、今のうちに図を追加しておけば今後使うことができる。

晨風丸、飛雲丸、電流丸は停泊のものはアンカーを下ろしている。走っている時のものはアンカーを搭載しているので船底まで見せて回してもいいけれど、停泊しているところは水面の線に色を付けてひっくり返すと船底が見えて錨で船が浮いているという構成にしていたほうが良い。何も知らずに人を見ると、ロープが下がっていて錨が無いとか、そういったことになるのでそのあたりは注意してほしい。

将来やるのであれば、今ならその程度であれば作るのは簡単。

資料 6-3 の 9 ページのドライドックの構造と運用でこういった説明をするのは良いけど、説明図はもう少し何とかしてほしい。

#### ●事務局

この部分はイメージということで、今後検討していかなければいけない内容なので調整させていただきます。

#### ●委員

同じく 14 ページに佐賀藩の旗で「赤角取」「青角取」が載っている。史料に「赤角取」という文字が書いてあるのか。「日本船路細見記」という一種の水路誌があって、西国大名の船印が載っている。その中では「角取」というのは、佐賀藩に限らないが佐賀藩の船印を見ると「角取」というのは旗ではない。船路細見記は国家図書館のデジタルコレクションで見ることができるので「角取」を確認したほうが良い。

ここに出ている例で、文字で「赤角取」「青角取」と書かれてこの図が載っているのであれば、それは佐賀藩の用法で構わない。日本船路細見記の用法とは違うので、一度確認してください。

#### ●事務局

確認します。船の CG の件については今後、相談させていただきます。

#### ●委員

明治維新当時諸藩艦船図に電流丸の図がある。電流丸のメインマストに掲げる旗が載っているけど、その旗の上に「角取」がついているものがある。あれが「角取」。チェックしておいて。

#### ●事務局

わかりました。

#### ●会長

ありがとうございました。他に何か。

#### ●委員

共通端末について多言語対応はされるのか。音声ガイドのような機能もつけられるのかとと思っているが、音声ガイドの追加は考えているのか。

記念写真を撮るところがあって、他にも SNS 対応と書いてある。SNS 対応をしていくというのは今後重要な部分になってくるかなと思っています。例えば当然ツイッターやインスタに投稿してくださいと、こちらから促すのも当然あると思いますけれど、さらに現地に来る以前に、例えば公式アカウントとかツイッターやインスタ含めてプロモーションというものを考えているのか。

もう一つ、それに付随する環境整備。データ利用量は相当増えるだろうし、最初からダウンロードしていらっしゃる方は多分少ないかなと思いますので、館内でフリーWi-Fi 環境の整備や、1 時間 2 時間動くと電池が当然無くなるので、これもフリーの充電サービスを考えたほうがいいのかと思ったが、いかがでしょうか。

#### ●事務局

多言語対応の件は日・英・中・韓の多言語化を考えています。トップページのメニューで言語の切りかえができるように考えたいと思っています。

音声ガイドは、現時点では考えておりません。

記念写真や SNS の利用は、利用を促すような形で誘導していくことができればと思っています。

館内でダウンロードをする方もいると思うのでフリーWi-Fi の整備は考えています。

充電の件は今後調整をかけたいと思います。

●委員

2点ほど確認。1つは「デジタルで楽しむ」について、タブレット上で見る人が、自分で視点をコントロールできる、先ほど360度見ることができると言われていましたが、他の三重津の空からのCG映像も自分で視点をコントロールできるのか。

●事務局

タブレットで、上を見ると上が見えるという形で、自分で視点を動かすことができるようにしたいと思っている。

●委員

画面をタップしてズームや違う角度から見るということはできないのか。あくまで向けた方向だけが見える状態なのか。

●事務局

カメラを向けたところで全体を見渡すことができるようにと考えていたが、ズームについては今後調整をかけていきたいと思う。

●委員

今では様子が変わってしまっているけれど、本来はこの方向はこういう風景が見えていたということを見せるわけですか。

●事務局

そう考えております。

●委員

洋式船CGを360度見ることができるとするのは、自分で画面をタップして見ることができるとか。

●事務局

船については、自分で見たい角度から見るという形で考えたいと思います。

●委員

船でそういう機能ができるのであれば、外の風景に関してもCG映像に関しても自分で回すことができるのは可能になるのか。

●事務局

そこは、くるくる回せる、もしくはズームにするところはCGの精度の問題にも関わってくるところもあるので、できるかどうかは今後調整をしていきたいと思っております。

●委員

あまりズームにすると粗が見えてくるのがCGの場合あるので。わかりました。

2点目ですが、記念写真のイメージがつかめないの、具体的にどんな機能ですか。

●事務局

記念写真が撮ることができるポイントに行くと、例えば三重津の風景CGをバックに写真を撮ることができるとか、電流丸が入ったフレームが出てくるといったことを考えております。

●委員

場所にそういった画像が壁面とかに映し出されるイメージですか。それともタブレットの画像上にCGが出てきて、その中に撮影者を映し込む感じなのか。

●事務局

検討しているのはタブレット中にフレームやCGが出てきて、そこに撮影をしたい人が入り込んでいくイメージ。

●委員

自撮りするわけですか。

●事務局

そうですね。

●委員

わかりました。

●委員

テキスト案11ページに、ドライドックの模型の見どころがある。

それに、「佐賀藩が警備に使用する軍船を和船から洋式船に変更したことから、入江に繋留されていた軍船の多くは解体され、その解体材がドック等の施設を造る際の部材に転用されました。」と書いてあるが、日本の船の場合、廃船で船を使わなくなると船を解体する。洋式船に切替えたから解体

するわけではなく、日本の場合木造船は用無しになると、解体して廃材を転用することが一般的。だから、ここに使われている材が、和船から洋式船に切替えた時のものか、それ以前にあった廃船のものか、話は別。あまり断定した書き方はしないほうが良い。

また、板材の「反り」とあるが、こういうのは反りとは言わない。船材の反りはまず無い。これは「曲がり」。板を曲げて船の棚板を造る時の曲がりが残っているわけで、反りというのは、平面に置いた時に反り上がるもの。反りと曲がりは違う。

●事務局

ありがとうございます。訂正します。

●委員

板材の繋ぎ目の写真で船釘の写真があるけれども、左の釘と右の釘では打つところが違う。1ページ目に掘立柱の下に板が敷いてあって、これが船材と説明があるけれど、この船材は11ページの左の写真に相当する板。右の板は場所が違う。そのあたりは説明をしたほうが良いように思う。せっかくこういうのが出ているから。

●事務局

説明は追加します。ありがとうございます。

●委員

左は通り釘、右は縫釘。

●会長

ありがとうございます。ほかにいかがでございましょうか。

●委員

タブレットを現地で見ている来館者の方の位置、空間に占める場所みたいなことを考えていたのですが、Dゾーンにもいくつかポイントがあるが、フロアの中央に電流丸と凌風丸の模型がある。フロアの狭くなっているところに凌風丸の模型が置かれているところと、ポイントがあるところの距離が今、1m30cmくらい。模型は360度見ることができるよう、四面から見るということは、模型を見る時に自由に回ることが想定されていて、そこから1mちょっとのところの説明ポイントがある。パネルを見ている時はある程度パネルから読む人まで距離の想定はできるが、タブレットはポイントの近くで見るとは思いますが、そこに没入していると1mちょっとしかないので、タブレットの横で模型を見ている人もいるので通れないとかありそう。

最初に報告いただいたスケジュールでは、現地で調整をするのが8月下旬にあったと思うけれど、距離感を考えながらポイントを設定する位置を決められるよう、現地調整の時間はできる限りとおいたほうが使いやすいものになるかなと気になりました。

また、端末の操作説明は受付でされるかもしれないけれど、実際現地で使うときに、近くに尋ねることができる人がいるのかどうか。使用するときの操作方法とか、人のケアをどのくらい想定しているのかを教えていただきたい。

●事務局

人の距離感の話はおっしゃるとおりでございまして、現場で調整しながら、微調整を繰り返していくのが大事になると思っておりますので、動作確認についてはできるだけ早めに現場で確認しながら進めていきたいと思っております。

現在、展示の中身の作り込みを進めていますが、どんな展示内容になって、どんな案内が必要になるというところを並行して、館のスタッフも含めての打合せを進めようとしているところです。どうやったら一番効果的に案内ができそうという点も話し合いをしながら、準備を進めていきたいと思っております。現時点で何人投入出来ますというところまでは調整が終わっておりませんが、並行して準備を進めようとしているところです。

●委員

わかりました。そのあたりのフォロー体制についても、よろしくをお願いします。

●委員

先ほどの質問でうまく伝わっていなかったようで、多言語対応というのが言語切替の多言語対応ではなく、インバウンドとしていらっしゃる方が現地に来て、iosのダウンロードストアやアンドロイドのアップストアはそれぞれの国ごとにアカウントを持っておかないと取れないということもあるの、それぞれの国に対応したそういったアプリを準備していく考えがあるのかという意味だった。

●事務局

端末の利用にあたって、個人の端末で見ていただくことも可能ですけれども、貸出し用の端末も50台ほど揃える予定にしているため、うまくダウンロードができないといった場合、貸出し用を利用いただく形で対応できればと思っております。

●委員

例えば、公式サイトをつくる。それぞれのいろんなところから閲覧できる。日本のアップルストアやアンドロイドからダウンロードする必要になってくるが、他国の人はそれができない可能性も出てくるので、それぞれの4か国語対応の国ごとにアプリを準備することが大事かなと思った。

●事務局

今回の整備ではそこまでの準備は出来ないかなと考えているので、先ほどの説明した貸出用の端末を、現地にお出でいただいたときに活用することで対応できればと思っております。

●委員

わかりました。ありがとうございました。

●会長

多言語対応については、すべて佐賀市がやる必要もないと思うので、関連の業者さんと相談しながらされるというのも一つのやり方かなと思います。

思いもよらぬことを教えていただくこともあります。私も福岡市で、観光関連の方のお話を伺ったときに、日・英・中・韓、どこでもそうですが中は繁体字、簡体字、両方という問題が常にあるけれど、中国大陆から来られている観光業者の方は、どっちか一つだったら繁体字がいいですよとおっしゃっていました。これはちょっとびっくりしましたが、読めないことはないらしく、どっちか一つしかやらないのであれば、簡体字一本より、繁体字一本のほうがいいのではないですかということも中華人民共和国の方がおっしゃって、びっくりしました。本当にそれが良いのか分からないけれど、実際に相談してみるのが良いかと思えます。ほかに何かございますでしょうか。

事前打合せの時もちょっと申し上げたんですけども、この種のもは議論を重ねて詳細に中身を詰めて、非常にすばらしいものができ上がったけど、現場でやってみたら動かなかったっていうのが、1番がっかり感が強い。特に素人だからかもしれないけど、どうもビーコンは不安定という感が拭えなくて、福岡市博物館でもあったけれども、市長の期待が非常に高かったので市長も来てもらって、実際にやってみたが、なぜか市長のiPhoneだけ反応しなかったという、担当者も真っ青みたいなのもある。特に混線の問題も心配ですし、実際に動くかどうか、恐らく何だかの故障、トラブルは必ず発生するだろうと私は思っていますけども、そういうときに的確に手早く対応できるかどうか、端末を取替えればそれで済む話なのか、そのあたりのことも、走りながらやっていかなければいけない部分は絶対あると思うので、そういうときに対処できるかどうかでも大事だと思います。

先ほど委員から指摘ありました、「操作がわからないよ」というのは絶対出てくるので、何人か然るべき方が現場に立っていらっしゃることは大事なことだと思う。スタッフも大勢が必要なわけではなくて、すごく単純なことであれっという方が数としては多いのではないかなと思う。全然別の話かもしれないけれど、国会図書館の電子化が非常に進んで便利になり、操作に迷うことが時々あるけれど、手を挙げたらすぐ飛んで来てくださる方がいらっしゃる。聞くともなく聞いていると、やっぱりカナ入力にするにはどうすればいいですかという質問っていっぱいある。なので、当初はいろんな人から、どうしたらいいですかと言われるかもしれないけど、複雑なことを聞かれるわけでは多分ないだろうと思うので、迅速丁寧に対応して差し上げることが、大事かなと。やっぱりこういうのは使ってみてうまくいかない、使うのを諦めてしまう。そういう方は非常に多いと思います。そういうのは非常に残念なので、実際に動き出してから、ちょっとうまくいかなかった時にどうするかということを手厚く考えておくのが良いと個人的には思いました。

特に何かなければ、本日の議事はこのあたりで終了したいと思えます。何かございましたらどうぞ遠慮なく。こういうことは経験上、さんざんやりとりした後で資料、また次の最終段階の資料を見せられて読み直しているとあれということが出てくるのがごく普通のことなので、恐らく、オープン前日になっても出てくるような類いのことだろうと思えます。走りながらでも、さらに詰めていけばよしいかなと思えます。本日は長時間どうも、ありがとうございました。事務局お返しいたします。

●事務局

有馬会長ありがとうございました。本日の会議では、展示内容はもちろんですが、オープンに向け

た準備のあり方、オープン後の対応の方法までご意見を頂戴いたしましたので事務局でいろんな角度から整理して参りたいと思います。ありがとうございました。

今後作業を行う中で、委員の方々に個別にご相談させていただいたり、作業部会等もお願いすることもあるかと思えます。今後ともご協力の程よろしくお願いたします。

次回の会議でございますけれども、改めて至急、日程調整をさせていただきたいと思っておりますけれども、会議の中でもございましたように、8月下旬頃には現場に大体展示物が揃う予定になりますので、先生方の都合が合われるようでしたらその頃に開催したいと考えております。

それでは最後に事務局から一言あいさつをさせていただきたいと思えます。

歴史・世界遺産課の村上でございます。本日はどうもありがとうございました。毎回感じることでございますけれども、相当我々もいろんな角度から検討を重ねているつもりではありますが、この場に来て、委員の皆様方から、指摘されることが多く非常に感謝しております。熱心に見れば見るほど、視野が狭くなっているというのはやっぱり多々あるなど感じているところでございます。

いよいよガイダンス施設オープンに向けて、ラストスパートということになります。現地での調整等今後出てまいりますけれども、先ほど話があったように8月の末、ぜひコロナも収まってもらって、現地で皆さまとお会いしたいと願っております。我々、今後もしっかり準備を進めてオープンできるように頑張っていきたいと思っております。皆さん方一度に会するのはなかなか頻繁には出来ませんが、必要に応じて、また個別に相談していただくこともあろうかと思えますので、何とぞ、今後ともよろしくお願したいと思えます。本日はどうもありがとうございました。

それでは本日の会議はこれで終了といたします。長時間にわたりありがとうございました。